

平成21年度青少年教育施設のあり方を考える懇話会における総合評価シート

平成21年9月8日

施設名	青少年センター	所管課室	生涯学習課
-----	---------	------	-------

業務の評価

項目	状況説明
①利用拡大のための取り組み	<p>利用拡大のために、以下の点で工夫が見られた。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○体育施設と職員の専門性を活かし、スポーツ体験教室の他に、新たにスポーツが得意な子どもを対象として、将来のトップアスリートを発掘する目的で、自分の能力を知らせ、具体的なトレーニングを取り入れた「夏休み集中スポーツ教室」を開催した。 ○県外大学合宿へ誘致のためのパンフレットの送付や、県立のいち動物園と連携した雨天時の昼食場所の提供、現行の予約制度の見直し(一年前からの予約可能な条件の拡大)により利用促進対策に取り組んだ。 ○学校とつながる場づくりとして、放課後子ども教室での活動支援や科学教室を開催し、また、専門体力測定をした学校へのデータ提供及び適切な筋力のトレーニング方法を伝えて再度の測定に繋げる仕組みの構築を行った。 ○メタボリック対策として、安芸福祉保健所と連携して出前講座を開催した。 ○スポーツ施設を中心とした運営から子どもの自立とキャリアデザインをサポートする体制に転換を図るため、学校長や市町村教育長から聞き取り調査を行ったうえで事業の組み立てを行い、平成21年度新規事業として学校及び子どもの生きる力をサポートするプログラムの開発に取り組んだ。
②利用者へのサービス向上のための改善策	<p>利用者へのサービス向上のために、以下の点で工夫が見られた。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○学校長や市町村教育長、地域のNPO等との意見交換やアンケート調査を実施しニーズの把握、分析を行うよう努めた。 ○施設利用者から指摘を受けていた本館2Fホール舞台の幕や演台の補修を行った。 ○食堂出入口の段差解消のためのスロープの設置、別館宿泊棟へのポータブルトイレの購入、炊飯棟へ車椅子で移動するための舗装を行う等、バリアフリー化に努めた。
③施設の運営について	<ul style="list-style-type: none"> ○社会教育施設として充実した運営や事業の実施が行えるように、職員の意識改革に向けた取り組みを行っている。 ○毎月1日に行う予約業務について、内規の見直しや受付手順等のルール化を行い、所内の共通認識を図った。 ○主催事業において、大学生等のボランティアを活用している。
④利用実績	<p>○平成20年度の利用実績は、宿泊者数7,913人、利用団体数1,707団体、利用者数125,796人であった。平成19年度と比較して、宿泊者数は1,063人減少したが、利用団体数は96団体、利用者数は14,442人増加した。</p>
⑤収支の状況	<p>○平成19年度と比較して、使用料収入は192千円の減収となった。</p>
総合評価	<p>本館と別館の老朽化が激しい中、利用者の安全性確保に努めるとともに、施設のバリアフリー化に努めた。</p> <p>平成20年度から、スポーツ施設を中心とした運営から子どもの自立とキャリアデザインをサポートする体制に大きく転換を図ったが、当年度は、業務の改善やニーズの分析による事業構築が主となっており、まだその具体的な成果が表れていない。平成21年度は、新たな視点をもって開発した様々なプログラムが行われるため、その成果を大いに期待している。</p> <p>なお、今後はアンケート調査や利用者動向の分析を十分に行い、今後の施設の運営に生かしてほしい。</p>
	B